

## 生徒の生徒による生徒のための生徒会

風薫る五月、過ごしやすい季節となりました。各教室を回ると、生徒同士が自分の考えを出し合い、必死に答えを導き出そうと話し合う姿が見られます。知識の定着を目的に、学んだ内容を再現させるアクティブラーニングの学習スタイルは、小学校や中学校で既に体験していることもあり、生徒の抵抗感が低減されているようです。生徒の話し合う声が廊下に溢れるほど活気を帯びた授業を見ると、時代の流れを感じずにはられません。私の高校時代は、授業に集中すると、教師が板書した目の前に並ぶ文字や数字、記号を片っ端から頭に叩き込むことと信じていました。残念ながら脳が疲れる午後には、先生の講義が子守唄の様に心地よくなり、瞼は如何なる筋力をもって持ち上げることができないほど重く、夢とうつつの狭間で戦う日々でした。

また、アウトプットでインプットの質を高めることが大切となった今、友だちに教えたり、教わったりすることができる関係性がとても羨ましく感じます。なぜなら、仲間は全員ライバルでもあり、コーラやアイスの奢りを条件にしなければ、教えてくれませんでした。

ところで、皆さんは日頃勉強する中で、難解な問題であろうとも必ず答えがあるからこそ、必死に解こうと努力しているはずで

しかし、世の中を見渡すと、正解や模範解答もなく、問題用紙すらありません。マスコミが報道する社会問題を自分とは関係ないと思う人は、家族、隣近所、地域などの身近な人たちとの関りを思い浮かべてください。色々な考えが存在し、疑問と感ずることがあるかもしれません。

私の家近くにある高架下外壁は、落書きが後を絶たず、業者が何度も塗装して消すのですが、一向に改善されません。景観を損ねるだけでなく、地域の治安を悪化させる要因にもなり、自治会も困り果てています。この様な危険、不快、脅威など、生活におけるリスクを避けて通ることができないのが世の中です。このことを踏まえると、自分や仲間に問い掛けられた問題でも、自分や仲間の力を頼りに、自分や仲間のために手を取り合い、多様な価値観をもって議論する学習で身に付けた行動力は、社会に待ち受ける困難を乗り越える力になるに違いありません。

令和8年5月1日（金）生徒総会が開催され、現執行部役員から前年度決算や今年度予算の報告、各委員会リーダーから今年度の目標や計画が示されました。誰もが安心して過ごし、誰もが自由な生き方を模索できる共同体とするためにも、生徒一人一人の参画意識が必要です。

会場では、次期役員へ立候補した生徒が、生徒の要望や学校の現状から導き出した課題を必ず解決に向けて努力することを公約に力強いスピーチがありました。

「生徒の生徒による生徒のための学校をつくりたい」この熱い思いは、学びの匂いとなり、学校生活の主体者が生徒であることの自覚を高めていました。学校は、社会に存在する多様な人間関係やルール、協力、格差、対立などの構造が凝縮して現れている社会の縮図とも言えます。自分の意志で課題（問い）を発見し、誰もが安心して過ごすことができる学校生活（答え）を考えることができる組織へと成長することを期待しています。

令和8年5月

